大崎短歌会

兼題『すす払い・自由』

戦世の話聞きいつ青き笹　山下海征
千切れんばかりに煤払いたる
歳重ね煤払いたし心身を　井元かず子
新たなる年恭しなり
上になり下になりして椋鳥の　坂元つる子
群は何処へ羽音残して
たのしみな九州場所運悪く　穂園芳江
郷土の力士体調不良
波静か冬来るらし横瀬の海　実吉安仁
銀砂かがやく七キロの浜
誘われて金婚式の撮影に　柷山重子
夫婦の歴史懐かし思う
煤払い心の穢れ清めの意　川﨑健一
年　納めに神の導を
年の瀬や一家総出の大掃除　上南紀子
嬉々と窓拭く小さきいもうと
老若の集ひて寺の煤払ひ　馬場みさ
白き息にも尽きぬ四方山

薩摩郷句

兼題『また』

気持の良　二度寝が過ぎっ　また遅刻　西ノ園ひらり
（唱）我がれで止めた　目覚ましゅ恨ん
頭を叩てっ　またかち歯痒い　探け物　諸木小春
（唱）年齢の沙汰じゃろ　ばったいいかん
厄介な灰へ　また訪問っ来い　桜島　上窪小絵
（唱）桜島あ良かどん　灰いな大変
妻ん小言　また言でけたち　耳む塞っ　遠矢酎多
（唱）何も聞こえん　耳どま日曜日
またねえち　手を振い孫い　祖母あ涙　北村虎王
（唱）またがあいかち　寂んね別れ
手をば振っ　また行会がち　クラス会　二見愚楽満
（唱）次回が何時かよち　幹事じ尋ねっ
またやった　二度も三度も　鹿県警　藤元鬼瓦
（唱）しっかいせんな　警察ち言うど
またも失敗　洗濯物な　ティシュまみれ　満石うらら
（唱）ガムテープどん　買け走らせっ
またな言て　そいかいが長げ　女友達　井上三ちゃん
（唱）同じ話す　果てもの語っ
パンドラん　箱がまた開た　再稼働　上村牛歩
（唱）開くっといかん　安全が心配
つ忘れた　頃ん消毒か　また流行っ　下橋清天
（唱）何時ずい続じっ　こげな生活
またな言て　孫ん笑顔どみ　癒されっ
（唱）孫と遊すべば　疲れもひっ飛っ